

陳述書

2024年 10月 7日

氏名

1 今回、国から、不妊手術以外にもIUS（以下、「ミレーナ」と言います）やピルなどの避妊手段があるという主張が出されました。しかし、以下に述べるとおり、ミレーナやピルの使用を続けることは、私にとってはとても身体的、精神的、金銭的負担が大きいのです。

2 ピルについて

ピルは、毎日決まった時間に飲まなければならない、飲み忘れた場合には、そのタイミングによって避妊効果が得られないことがあると言われています。私にとって、毎日同じ時間帯に服薬を続けること程難しいことはなく、飲み忘れの可能性、つまり妊娠の可能性のあるピルを、避妊の方法として選択することはできません。

3 ミレーナについて

まずミレーナを取り扱っている、入れる技術のある病院自体が少ないです。私は実際にミレーナを入れていますが、独身かつ子がいない私に無条件でミレーナをいれてくれる病院を見つけることは困難を極めました。病院を探す中で、インターネットで色々と検索したところ、子供が複数人いる人でさえも、「もう一度考え直してみて」とミレーナを入れることを断られたという口コミもあり、私が受診しても断られてしまうのではないかという不安もありました。

結果的に、私はミレーナを入れてくれる病院を見つけましたが、ミレーナを入れた後は、やはり痛みがありましたし、数か月は不正出血が続きました。それでも、ミレーナを入れる前に比べると妊娠に対する不安感は多少和らぎました。ただ、ミレーナを入れた際に、自然脱落する可能性があることの説明を受け、やはりミレーナでも私の「絶対に妊娠したくない」という希望を叶えることはできないのだということが分かりました。

また、ミレーナには使用期限があります。ミレーナの使用期限は5年間で、私が初めてミレーナを入れたのが2019年だったので、今年入れ替えを行いました。私は一生妊娠をしないことを希望しているので、閉経年齢が50歳位だとすれば少なくともさらに5回はミレーナを入れ替えなければなりません。1回ミレーナを入れるたびに、強い羞恥心を感じながら下半身に何も履かずに内診台に座って内診を受けなければならないのです。

さらに、ミレーナを入れるのにかかるお金は一回あたり45,000円で、

今後5回ミレーナを入れるとすればさらに20万円以上を支払わなければならない、私にとっては大きな負担です。

加えて、婦人科では慣例的に麻酔が使われないのでこれまで2回とも麻酔なしでミレーナをいれています。あまりの痛みに私は自分の頬の内側を噛んでしまい、血が出ました。

- 4 このように、私は、ピルやミレーナがあるということはもちろん知っているし、実践してもいます。その上で不妊手術をして妊娠しない体になりたいと私は主張しています。

知っていることと体験したこととの間には大きな差があり、避妊方法はそれぞれその効果や私たちの体に与える影響も違い、並列で並べられるものではありません。体に合うか合わないかというのは体験してみなければわかりません。

人生は常に二者択一の連続であり、子供を持たば子供を持たなければ良かったと後悔するかもしれないし、子供を持たなければ子供を持たなければ良かったと後悔するかもしれません。でも、それが自分で決定したことであれば、その後悔にも自分で責任を持つことができます。もし私も将来子供を持たば良かったと後悔することになったとしても、私は妊娠出来る身体に対する不快感や妊娠に対する恐怖心の方が大きく、不妊手術を受けたいのです。

以上